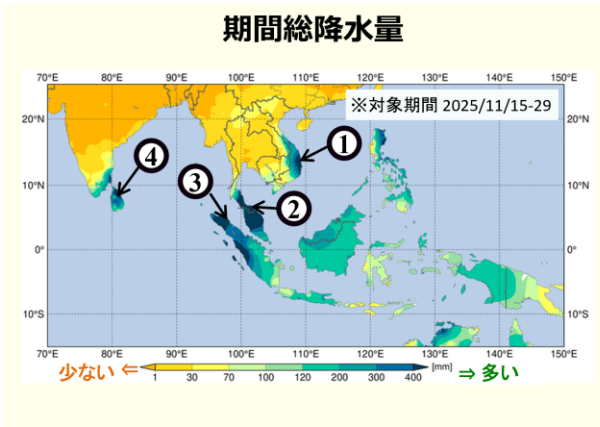


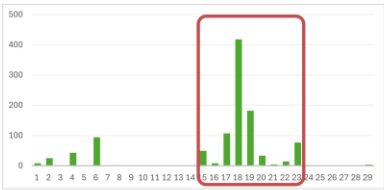
A. 降水の状況の概要図

顕著な降水を観測した地点と期間



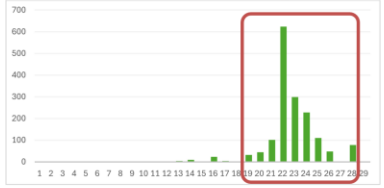
※赤枠は10mm程度以上の降水が継続した期間  
※1日の区切りは世界協定時の0時

①ベトナム／クイニョン



11/18  
日降水量418mm  
11/15-11/23  
総降水量892mm

②タイ／ナラティワート



11/22  
日降水量624mm  
11/19-11/28  
総降水量1564mm

④スリランカ／バブニヤ



11/27  
日降水量356mm  
11/22-11/28  
総降水量797mm

③インドネシア／ロークスマウエ



11/25  
日降水量311mm  
11/26  
日降水量302mm  
11/19-11/27  
総降水量931mm

B. 主な地点のデータ（国際気象通信網で通報された地上気象観測報から）

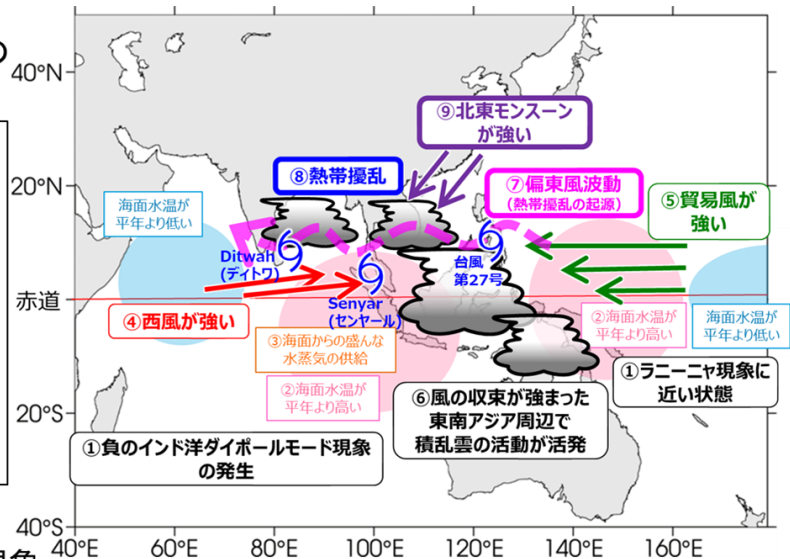
国	地点名	期間	期間 総降水量（mm）	日降水量の 期間最大（mm）
ベトナム	クイニョン	11/15-11/23	892	418
	ニャチャン	11/15-11/21	537	172
タイ	ナラティワート	11/19-11/28	1564	624
	パタニ	11/18-11/28	1510	338
	ハジャイ国際空港	11/19-11/26	1282	370
マレーシア	コタバル	11/19-11/25	1188	486
	クアラルンプール	11/20-11/28	374	128
インドネシア	ロークスマウエ	11/19-11/27	931	311
	バンダアチェ	11/21-11/27	290	147
スリランカ	バブニヤ	11/22-11/28	797	356
	トリンコモリー	11/20-11/27	583	236

## C. 大雨の背景となった大気・海洋の状況の概念図とその解説

※ 異常気象分析検討会の協力を得て作成

2025年10月以降の大気・海洋の状況(背景場)

- ① 太平洋はラニーニャ現象に近い状態及び負のインド洋ダイポールモード現象\*
- ② 東南アジア周辺の海面水温が高い
- ③ インド洋東部では海面から多量の水蒸気が供給
- ④ インド洋での強い西風
- ⑤ 太平洋熱帯域の強い貿易風
- ⑥ ④と⑤の風が東南アジア付近で収束し、積乱雲の活動が活発



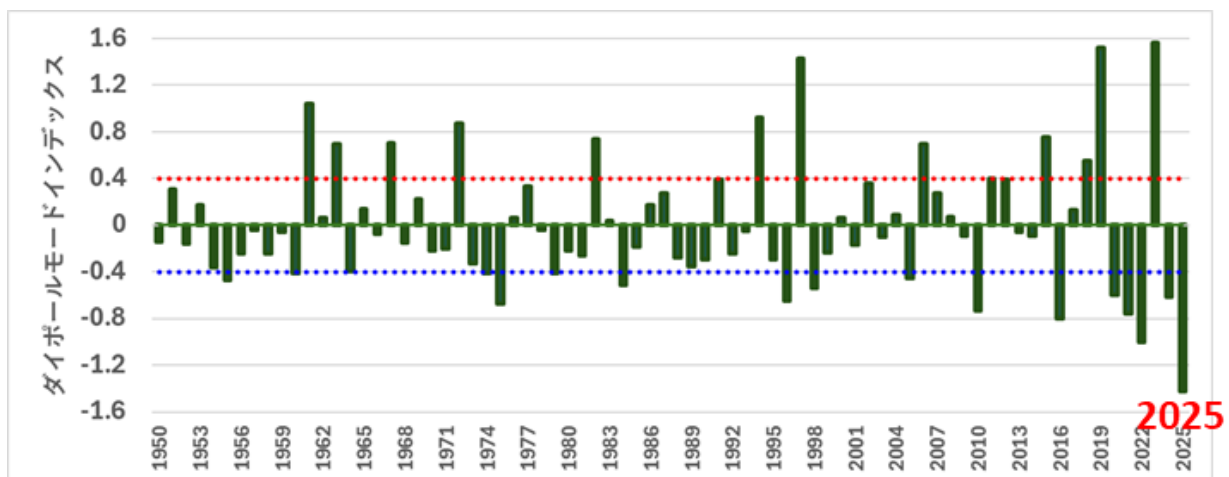
大雨時(11月後半)に起こった現象

- ⑦ 偏東風波動が太平洋から西進し、東南アジア周辺では積乱雲の活動がもっと強まり
- ⑧ 熱帯擾乱(サイクロン)も発生して、各地で大雨が相次いだ。
- ⑨ 北東モンスーンが強まったことも、風の収束を強めた可能性が考えられる。

\* インド洋ダイポールモード現象とは

インド洋熱帯域の海面水温が東部で平年より高く、西部で平年より低くなる場合を負のインド洋ダイポールモード現象と呼ぶ(逆のパターンが正)。概ね夏から秋(6~11月)の間に、数年に一度の頻度で発生し、インド洋周辺の国々の気候に大きな影響を与える。

※ インド洋ダイポールモードインデックスの経年変化

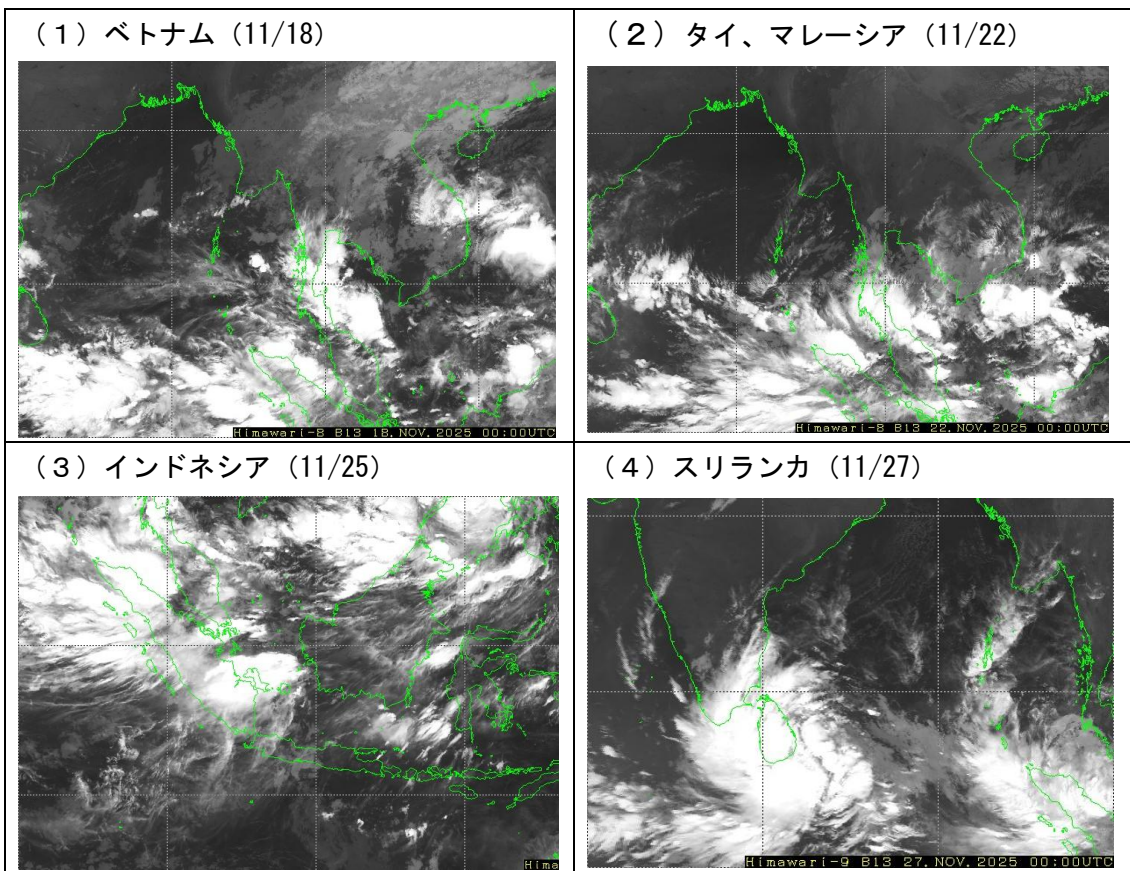


※ インド洋ダイポールモードインデックスは、インド洋西部(東経 50~70 度、南緯 10 度~北緯 10 度)平均の海面水温基準値からの差から東部(東経 90~110 度、南緯 10 度~赤道)平均の海面水温基準値からの差を引いたもの。計算方法の詳細は、次の URL 参照。  
[https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/climate/iod/iod\\_data.html](https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/climate/iod/iod_data.html)

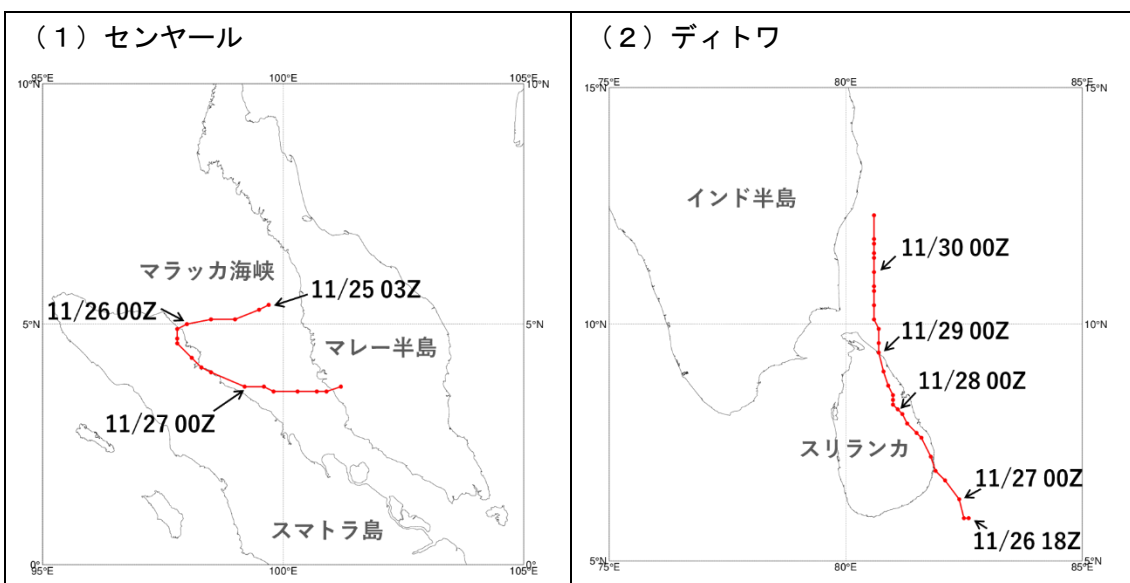
※ 3 か月平均値が 3 か月連続で +0.4 以上となった場合を正のインド洋ダイポールモード現象、-0.4 以下となった場合を負のインド洋ダイポールモード現象と呼ぶ。

※ 上図の値は、各年の 3 か月(9~11 月)平均値。

D. 気象衛星ひまわり画像（各国で降水量が多かった日、いずれも 00UTC）



E. サイクロンの経路図（熱帯低気圧 RSMC ニューデリーセンターの熱帯低気圧位置情報から作成）



※ 2つのサイクロンともに、移動速度が遅かったのが特徴的だった。